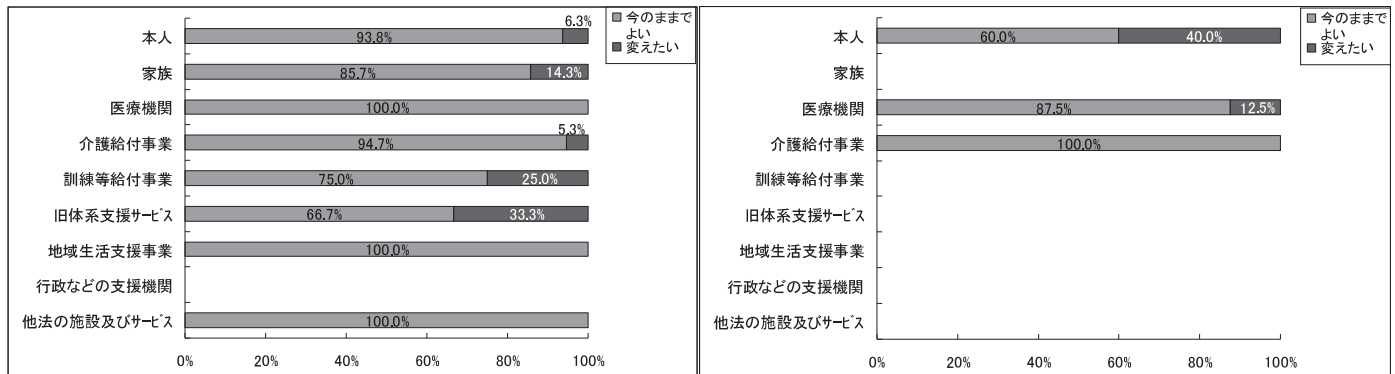


図表 7-4-8 主たる支援者の変更希望(現在と将来の希望)(食事管理)

【地域】

【再入院中】



		現在の 主たる支援者 [人]	支援主体の変更			
			今のままでよい		変えたい	
			人数[人]		割合[%]	
地域	本人	48	45	3	93.8	6.3
	家族	7	6	1	85.7	14.3
	医療機関	6	6	0	100.0	0.0
	介護給付事業	19	18	1	94.7	5.3
	訓練等給付事業	4	3	1	75.0	25.0
	旧体系支援サービス	3	2	1	66.7	33.3
	地域生活支援事業	3	3	0	100.0	0.0
	行政などの支援機関	0	0	0	0.0	0.0
	他法の施設及びサービス	2	2	0	100.0	0.0
	合計	92	85	7	92.4	7.6
	無回答	23	-		-	
再入院中	本人	5	3	2	60.0	40.0
	家族	0	0	0	0.0	0.0
	医療機関	8	7	1	87.5	12.5
	介護給付事業	1	1	0	100.0	0.0
	訓練等給付事業	0	0	0	0.0	0.0
	旧体系支援サービス	0	0	0	0.0	0.0
	地域生活支援事業	0	0	0	0.0	0.0
	行政などの支援機関	0	0	0	0.0	0.0
	他法の施設及びサービス	0	0	0	0.0	0.0
	合計	14	11	3	78.6	21.4
	無回答	1	-		-	

※各行の合計値を分母として割合を算出した。

※四捨五入の関係で、「割合」の和は100.0%にならない。

(5)生活スタイル

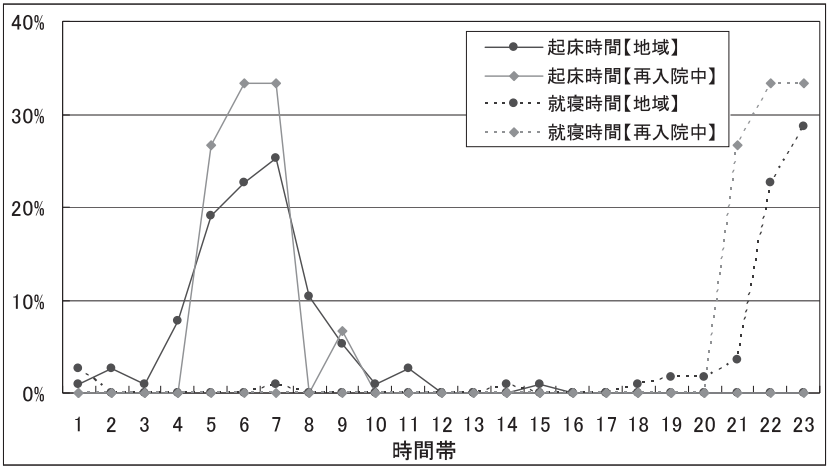
本節では、利用者の生活スタイルに着目して、以下の視点で分類し、現在の生活の状況とそれを今後どのようにしていきたいのかを整理していく。

- ① 睡眠
- ② 食事
- ③ 余暇活動
- ④ 外出
- ⑤ 来訪
- ⑥ 家事
- ⑦ 服薬

① 睡眠

起床時間は、地域生活者においては多様である。入院者の90%以上が5時台から7時台に起床しているのに対し、地域生活者は4時台から8時台に起床時間帯が広がっている。就寝時間についても同様に多様である。入院者は90%以上が21時から23時台に就寝しているのに対し、地域生活者は21時台から翌日0時台に広がっている。また、地域生活者の中には早朝に就寝し、夕方に起床するといった昼夜が逆転している方が若干(1名程度)いるようである(図表7-5-1)。

図表 7-5-1 起床時間と就寝時間



時間帯			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
起床時間	地域	人数[人]	0	1	3	1	9	22	26	29	12	6	1	3		
		割合[%]	0.0	0.9	2.6	0.9	7.8	19.1	22.6	25.2	10.4	5.2	0.9	2.6		
	再入院中	人数[人]	0	0	0	0	0	4	5	5	0	1	0	0		
		割合[%]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.7	33.3	33.3	0.0	6.7	0.0	0.0		
就寝時間	地域	人数[人]	41	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		
		割合[%]	35.7	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0		
	再入院中	人数[人]	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		割合[%]	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	時間帯		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	無回答	合計
起床時間	地域	人数[人]	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	115
		割合[%]	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	100.0
	再入院中	人数[人]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
		割合[%]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
就寝時間	地域	人数[人]	0	0	1	0	0	0	1	2	2	4	26	33	1	115
		割合[%]	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.9	1.7	1.7	3.5	22.6	28.7	0.9	100.0
	再入院中	人数[人]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	5	0	15
		割合[%]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.7	33.3	33.3	0.0	100.0

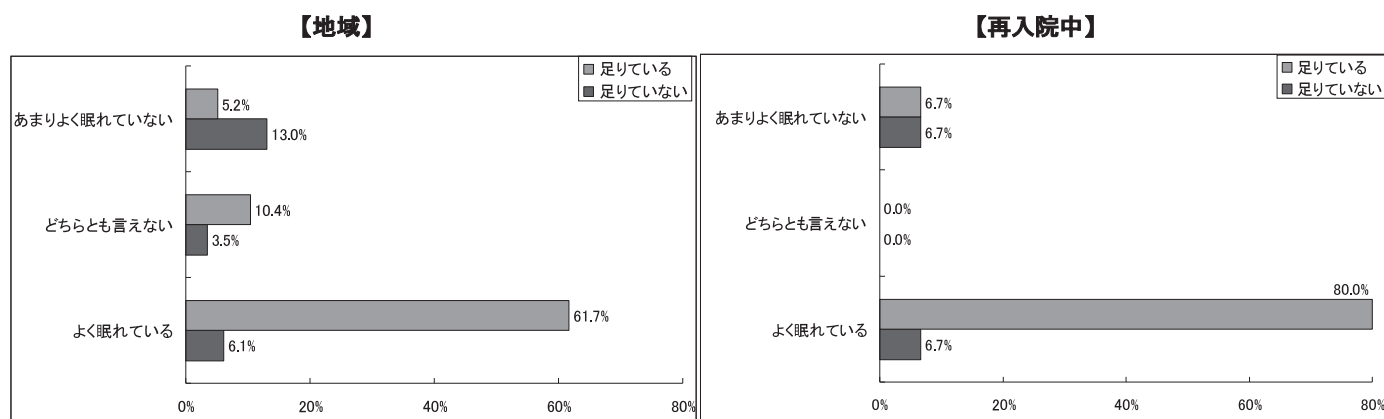
※四捨五入の関係で、「割合」の和は100.0%にならない。

以上のような状況に対して、よく眠れていて、睡眠時間が足りていると感じているのは地域生活者全体の 61.7%であった。一方、入院者は 80.0%であった。あまりよく眠れておらず、睡眠時間も足りていないと感じている地域生活者は 13.0%であった(図表 7-5-2)。

なお、「あまりよく眠れていない」が睡眠自体は「足りている」とする方が 6 人(5.2%)いた。この方たちは、主に眠剤を飲むことで眠ることはできているが、眠り自体は浅いというものであった。また、あまりよく眠れていない理由の多くは、自由記述によると、中途覚醒であった。

以上の内容を整理すると、地域生活者は、入院生活と比べ、起床時間や就寝時間は自由に設定していると言することができる。また、地域生活者に関して 77.4%の方が睡眠時間は足りており、67.8%がよく眠れているとしている。

図表 7-5-2 睡眠時間の充足度



		充足度					
		足りていない	足りている	合計	足りていない	足りている	合計
		人数[人]			割合[%]		
地域	あまりよく眠れていない	15	6	21	13.0	5.2	18.3
	どちらとも言えない	4	12	16	3.5	10.4	13.9
	よく眠れている	7	71	78	6.1	61.7	67.8
	合計	26	89	115	22.6	77.4	100.0
再入院中	あまりよく眠れていない	1	1	2	6.7	6.7	13.3
	どちらとも言えない	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	よく眠れている	1	12	13	6.7	80.0	86.7
	合計	2	13	15	13.3	86.7	100.0

※四捨五入の関係で、各割合の合計が一致しない。

② 食事

食事の摂取状況、調理方法、食事機会(一緒に食べる人)の現状と充足度をについて図表 7-5-3 から図表 7-5-7 に整理した。

地域生活者の食事摂取状況は朝昼晩の 3 食を摂取している方が、79.1%(91 人)であった。このうち、現在の食事摂取状況について 80.2%が満足していた。また、昼夜の 2 食を摂取している方は 15.7%(18 人)であった(図表 7-5-3)。このうち、現在の食事摂取状況について、55.6%が足りているとしているものの、44.4%は足りていないとしている(図表 7-5-7)。一方、入院者は 100.0%の方が朝昼晩の 3 食摂取し、うち 73.3%の方がその食事を足りていると判断している(図表 7-5-3、図表 7-5-7)。

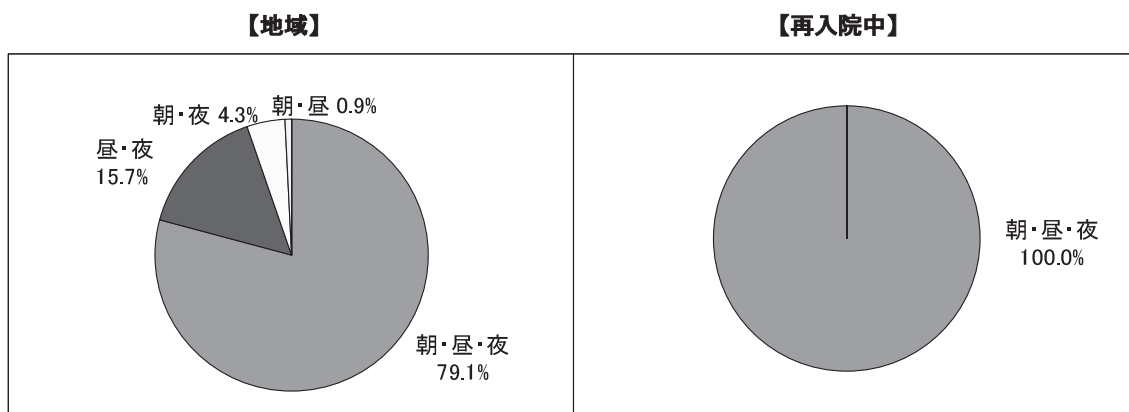
地域生活者の調理方法は 47.8%(55 人)が自炊の頻度が最も多いとしている。その他、18.3%(21 人)が弁当、16.5%(19 人)が支援者による調理と回答している(図表 7-5-4)。自炊や支援者が調理している場合には足りていると回答している方がそれぞれ、87.3%、94.7%であったのに対し、弁当の場合は 52.4%となり、足りていると回答している方の割合が他と比較して低かった(図表 7-5-7)。自由記述内容を見ると、朝晩は自炊をし、日中はデイケア等の昼食を活用するパターンも多いようである。「スーパーで惣菜等を買ひ、米は自分で炊く」という回答も複数見られた。一方、入院者は 86.7%(13 人)が給食であり、76.9%の方が足りているとしている(図表 7-5-4、図表 7-5-7)。なお、入院者において、「自炊」とした方 1 名(6.7%)は、外泊体験プログラムにおける自炊である。

地域生活者の食事機会(一緒に食べる人)については、43.5%(50 人)が一人で食べる(= 一緒に食べる人なし)と回答している(図表 7-5-5)。続いて通所先仲間と食べるのが 27.0%(31 人)であった。そのうち、それぞれ 74.0%、74.2%は食事が足りていると回答している(図表 7-5-7)。一方、入院者は 86.7%(13 人)が他の入院患者と食べているようであった(図表 7-5-5)。

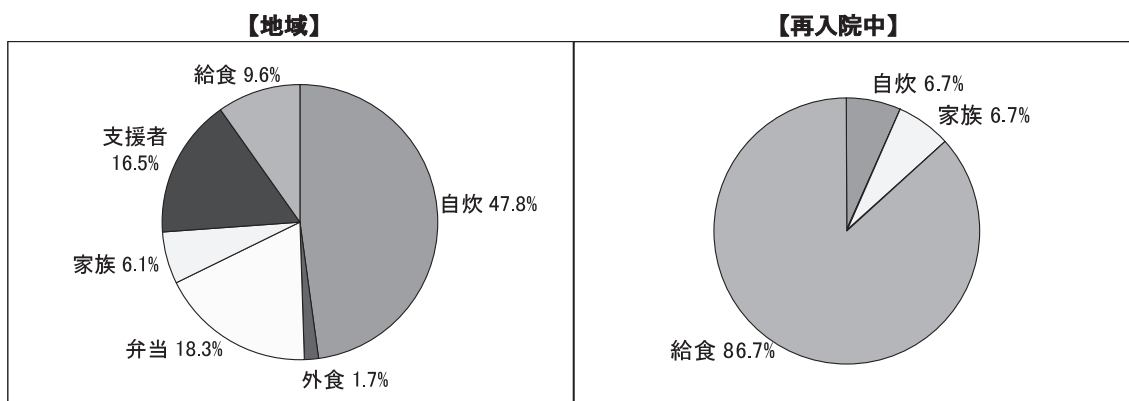
食事自体の充足度については、地域生活者の 77.4%、入院者の 73.3%の方が足りていると回答している(図表 7-5-6)。

以上を整理すると、地域生活者は概ね朝昼晩の食事を自ら調理し、一人または通所先仲間と食べていると考えられる。また、食事自体は足りていると感じている人が多いと言える。

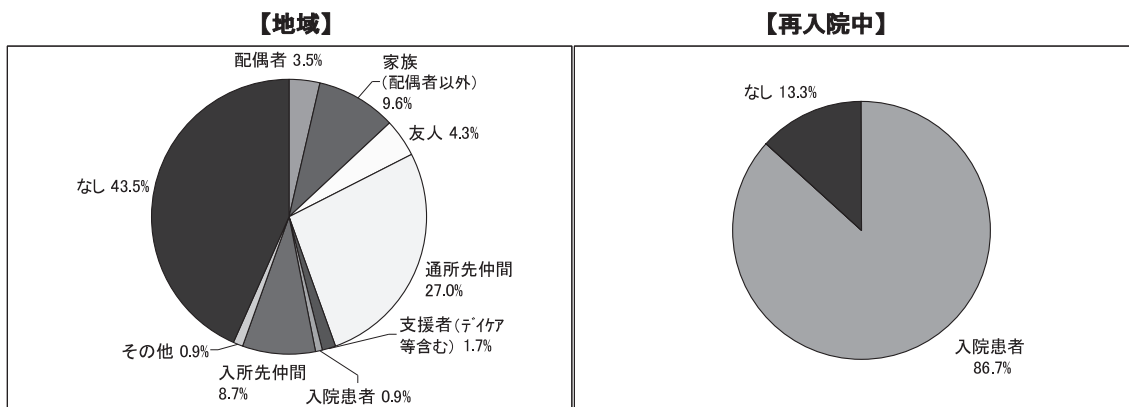
図表 7-5-3 食事の摂取状況



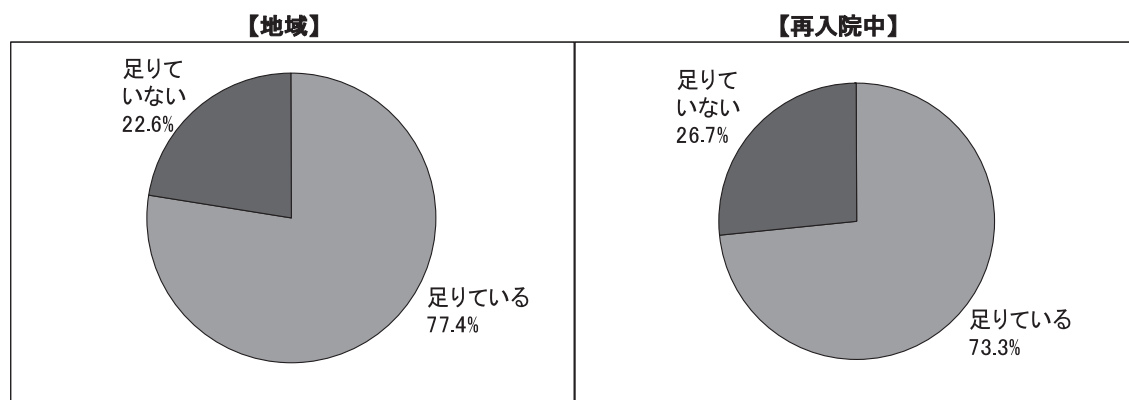
図表 7-5-4 食事の調理方法



図表 7-5-5 食事の機会(一緒に食べる人)



図表 7-5-6 食事の充足度



図表 7-5-7 食事の現状と充足度

			足りて いない	足りて いる	合計	足りて いない	足りて いる	合計
			人数[人]			割合[%]		
摂取形態	地域	朝昼夜	18	73	91	19.8	80.2	100.0
		昼夜	8	10	18	44.4	55.6	100.0
		朝夜	0	5	5	0.0	100.0	100.0
		朝昼	0	1	1	0.0	100.0	100.0
		合計	26	89	115	22.6	77.4	100.0
	再入院中	朝昼夜	4	11	15	26.7	73.3	100.0
		昼夜	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		朝夜	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		朝昼	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		合計	4	11	15	26.7	73.3	100.0
調理方法	地域	自炊	7	48	55	12.7	87.3	100.0
		外食	2	0	2	100.0	0.0	100.0
		弁当	10	11	21	47.6	52.4	100.0
		家族	1	6	7	14.3	85.7	100.0
		支援者	1	18	19	5.3	94.7	100.0
		給食	5	6	11	45.5	54.5	100.0
		合計	26	89	115	22.6	77.4	100.0
	再入院中	自炊	1	0	1	100.0	0.0	100.0
		外食	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		弁当	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		家族	0	1	1	0.0	100.0	100.0
		支援者	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		給食	3	10	13	23.1	76.9	100.0
		合計	4	11	15	26.7	73.3	100.0
食事機会	地域	配偶者	1	3	4	25.0	75.0	100.0
		家族(配偶者以外)	1	10	11	9.1	90.9	100.0
		友人	2	3	5	40.0	60.0	100.0
		通所先仲間	8	23	31	25.8	74.2	100.0
		支援者(デイケア等含む)	0	2	2	0.0	100.0	100.0
		入院患者	0	1	1	0.0	100.0	100.0
		入所先仲間	0	10	10	0.0	100.0	100.0
		その他	1	0	1	100.0	0.0	100.0
		なし	13	37	50	26.0	74.0	100.0
		合計	26	89	115	22.6	77.4	100.0
	再入院中	配偶者	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		家族(配偶者以外)	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		友人	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		通所先仲間	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		支援者(デイケア等含む)	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		入院患者	3	10	13	23.1	76.9	100.0
		入所先仲間	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		なし	1	1	2	50.0	50.0	100.0
		合計	4	11	15	26.7	73.3	100.0

※各行の合計値を分母として割合を算出した。

食事に関する自由記述を見てみると、食事の足りている要因(満足要因)、足りていない要因(不満要因)は様々である。以下にその内容を整理する。

基本的には、回答者は調理方法やその内容、味付けが自分とあっているかで判断しているようである。(図表 7-5-8)。

図表 7-5-8 食事に関する満足要因、不満要因

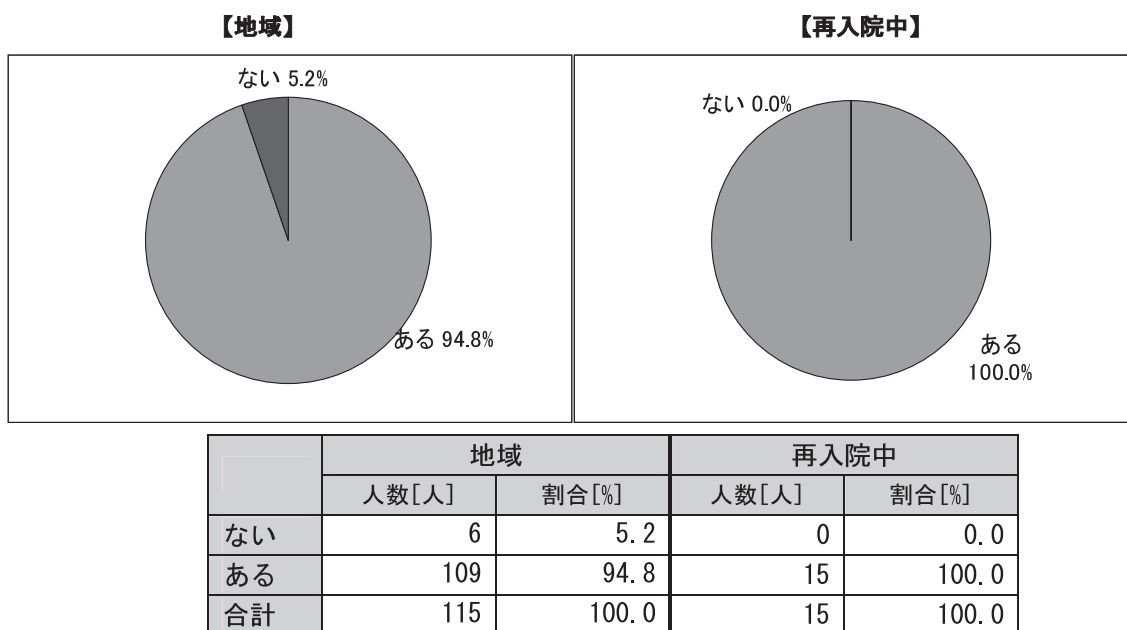
満足要因	[摂取形態] 特になし。 [調理方法] ・おいしい調理が届くから満足している。 ・栄養価をきちんと計算した物を食べることができる。(糖尿病があるため) ・食べたい物を食べることができる。 [食事機会] ・従兄弟が夜食などを買ってきてくれる。 [その他] ・安いし、カロリーを計算してくれる。
不満要因	[摂取形態] 特になし。 [調理方法] ・外食やレトルト食品ばかりであきた。 ・魚やスープも食べたいが、面倒だから1,2品しかできない。 ・電子レンジがない。 → 調理器具が欲しい。 [食事機会] 特になし。 [その他] ・寿司を食べたい。 松茸を食べたい → 食べたい物が食べられない。 ・安い物を食べたい。 食材が高い。

③ 余暇活動

地域生活者の 94.8%(109 人)が余暇活動を行っている(図表 7-5-9)。具体的には²⁰、DVD やテレビ、音楽鑑賞、カラオケ、デイケアでのプログラム、パチンコ、読書、将棋などが挙がっていた。これらの趣味は地域生活者で 77.4%の方、入院者に関しても 86.6%の方が週に 1 回以上実施している(図表 7-5-10)。

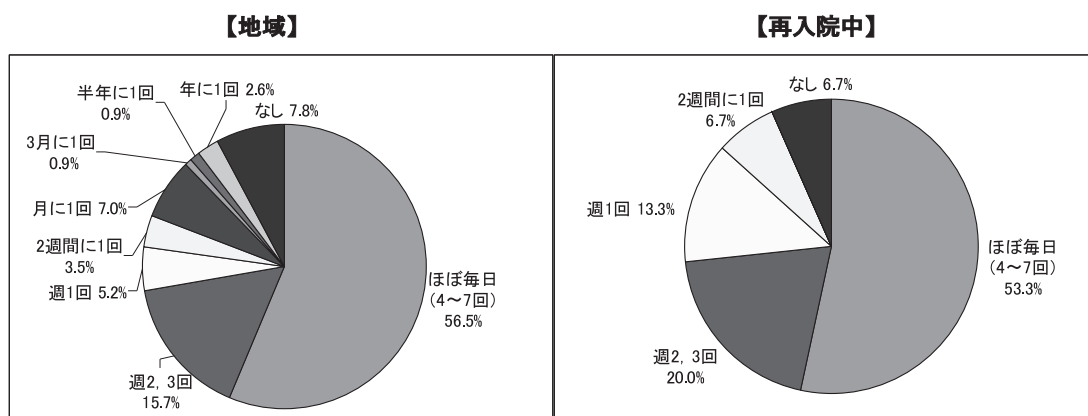
なお、これらの余暇活動は地域生活者で 88.7%、入院者で 86.7%が継続したいと考えている(図表 7-5-11)。

図表 7-5-9 余暇活動の有無



²⁰ 自由回答で 2 人以上が回答しているものを主に取り上げた。

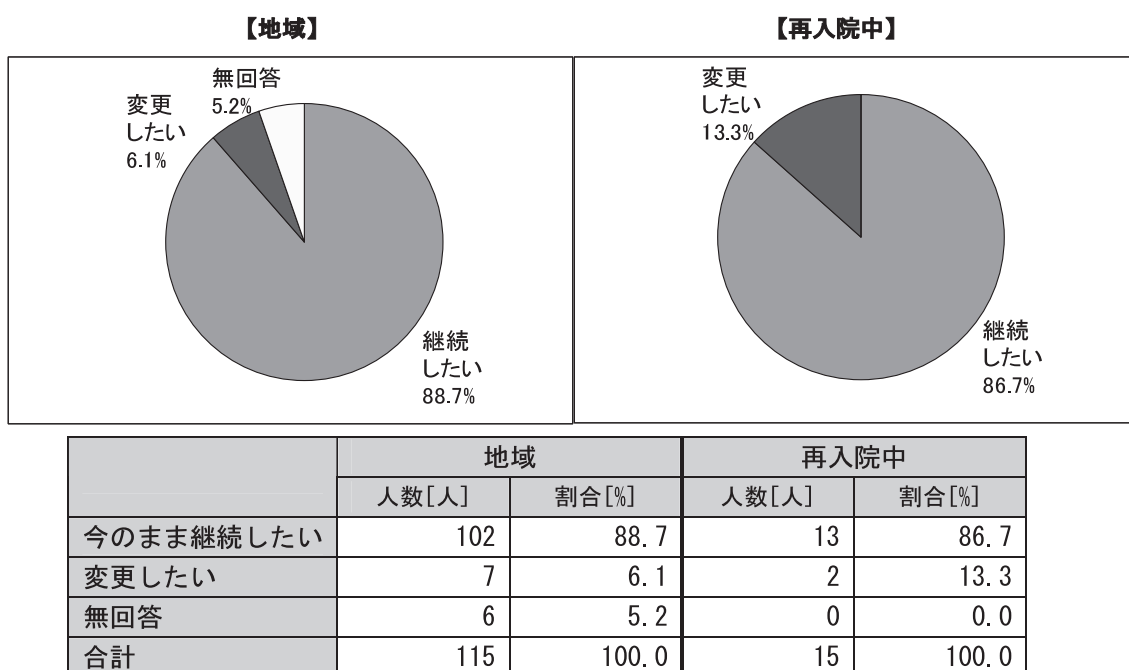
図表 7-5-10 余暇活動の頻度



	地域		再入院中	
	人数[人]	割合[%]	人数[人]	割合[%]
ほぼ毎日 (4~7回)	65	56.5	8	53.3
週 2, 3 回	18	15.7	3	20.0
週 1 回	6	5.2	2	13.3
2 週間に 1 回	4	3.5	1	6.7
月に 1 回程度	8	7.0	0	0.0
3 月に 1 回程度	1	0.9	0	0.0
半年に 1 回程度	1	0.9	0	0.0
年に 1 回程度	3	2.6	0	0.0
なし	9	7.8	1	6.7
合計	115	100.0	15	100.0

※四捨五入の関係で、割合の和は 100.0%にならない。

図表 7-5-11 余暇活動の充足度(今後も続けたいかどうか)



なお、自由記述を見ていると、余暇活動を継続したい要因、継続したくない要因は様々である。以下にその内容を整理する(図表 7-5-12)。

基本的には、楽しいことが継続の理由として多かった。継続しない理由として、仕事(授産活動を含む)を行っているために時間的余裕がないことを挙げる方が数人いた。

図表 7-5-12 余暇活動に関する継続したい要因、継続しない要因

継続したい要因	・ やっていると楽しいから ・ 手芸をし、実娘や孫の元気な表情を見るのが嬉しい。 ・ 暇な時間を解消するため。
継続しない要因	・ 就職してみても、余暇の継続が無理であればやめるつもりでいる ・ 仕事(授産活動を含む)があるため時間的な余裕はない。

上記で挙げた余暇活動の他にやりたい余暇活動はあるかとの問いに対しては、地域生活者は 47.0%、入院者は 60.0%があると回答している。

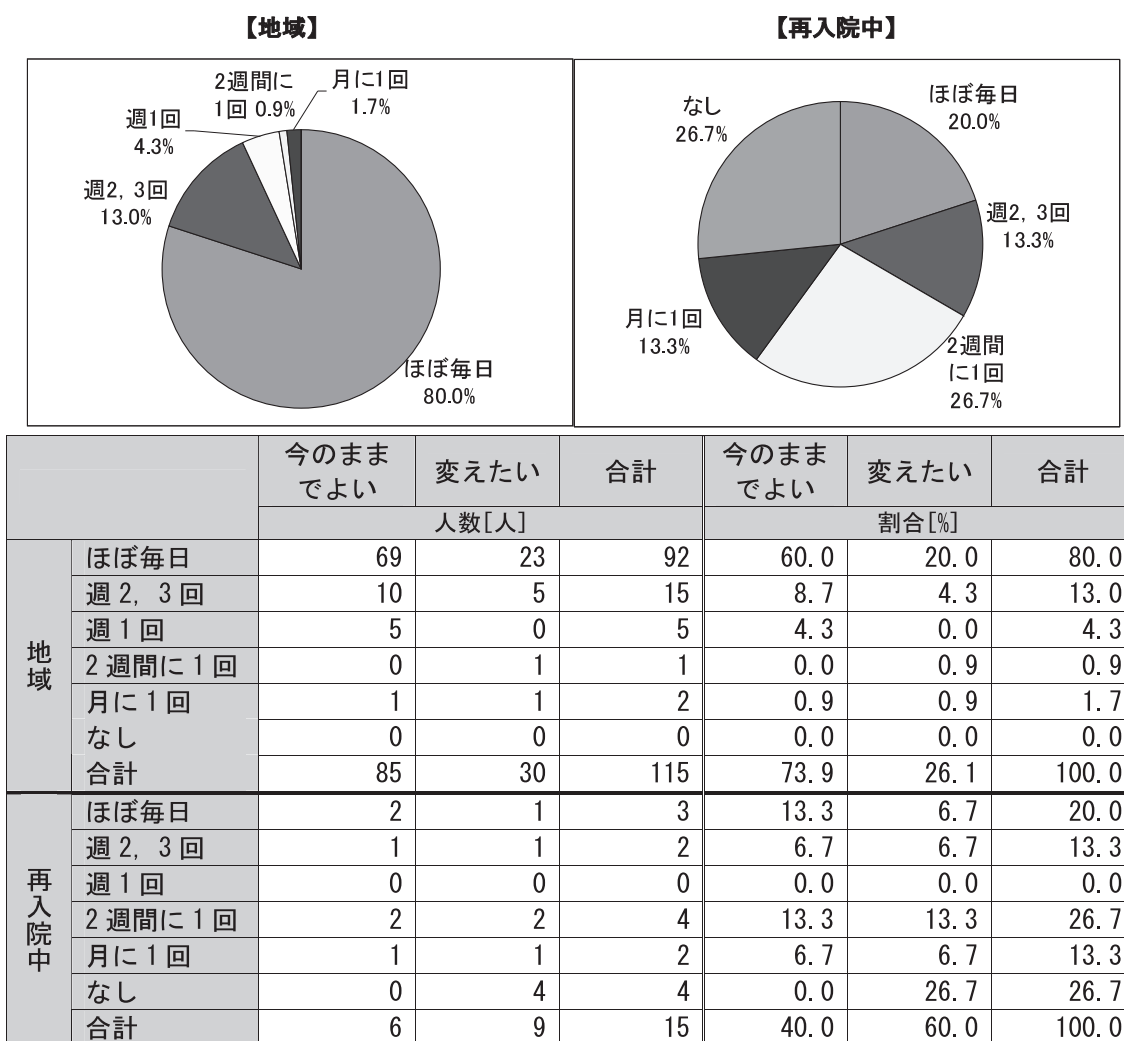
以上の内容を整理すると、90%以上の方が自分なりの余暇の過ごし方をしていると言える。それは概ね週に 1 回以上は実施され、85%以上の方がそのまま継続したいと考えていると言える。また、継続が難しいと考えているのは、仕事等で時間がとられ、時間的余裕がなくなった場合と言える。

④ 外出

地域生活者の 97.4%(112 人)が週 1 回以上外出し、80.0%は毎日外出している。全体で 73.9%は今のままでよいと考えている。一方、入院者は週 1 回以上外出するのは 33.3%(5 人)であった(図表 7-5-13)。60%の方は、外出頻度を変えたいとしており、自由記述を確認すると、「外出頻度、時間を増やしたい」という希望が多かった。

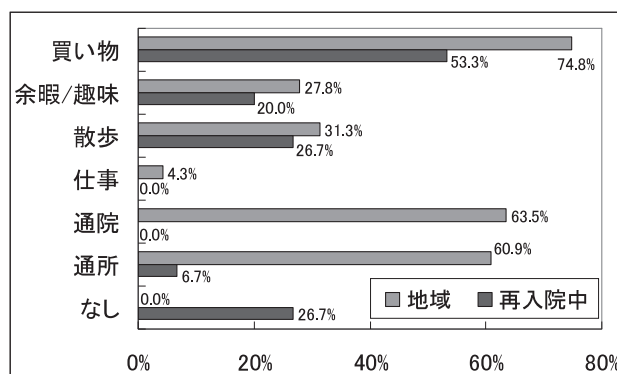
地域生活者の外出目的としては買い物(74.8%)、通院(63.5%)通所(60.9%)の順に多かった。また、散歩、余暇活動のための外出はともに約 3 割である。入院者では買い物(53.3%)が最大となったが、散歩や余暇活動のために外出することもあるようである(図表 7-5-14)。

図表 7-5-13 外出の現状と充足度



※四捨五入の関係で、割合の和は 100.0%にならない。

図表 7-5-14 外出目的(複数回答)



	地域		再入院中	
	人数[人]	割合[%]	人数[人]	割合[%]
買い物	86	74.8	8	53.3
余暇/趣味	32	27.8	3	20.0
散歩	36	31.3	4	26.7
仕事	5	4.3	0	0.0
通院	73	63.5	0	0.0
通所	70	60.9	1	6.7
なし	0	0.0	4	26.7

※外出目的として、各項目を選択した方の人数と割合を算出した(分母は地域生活者 115 人、入院者 15 人)。